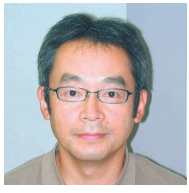
Q 今年はRSウイルス感染症がすでに流行しているという事のようですが、どんな病気ですか？

A 毎年の事ですが、インフルエンザの流行に先駆けて、これからＲＳウイルス感染症の流行期に入ります。この感染症は免疫ができにくいので、どの年齢でも何度も感染します。大人や年長児はかかっても鼻カゼ程度で済んでしまうことがほとんどです。そうとは知らず彼らが同じ家庭内にいる乳幼児への感染源になっている可能性もあります。一方、乳幼児、特に予定日より早く生まれた早産児や基礎疾患がある子、１歳未満の乳児が感染すると重症になります。インフルエンザと比較すると、細気管支炎、肺炎を合併することが多く入院が必要なこともあります。これからの時期、総合病院の小児科に入院する小児はインフルエンザよりＲＳウイルス感染症の方が圧倒的に多くなります。その意味ではRSウイルス感染症はインフルエンザより怖い病気だといえるかもしれません。

症状は、インフルエンザが鼻やノドを中心とした上気道の感染症なのに対して、このウイルスは気道のもっと奥、気管支からさらに奥の細気管支と呼ばれる下気道を感染の場にします。したがって始まりは、咳や鼻水などカゼの症状ですが、次第に咳がひどくなりゼイゼイと苦しそうな、ぜん息の様な呼吸になっていきます。入院が必要かの目安は、全身状態特に呼吸の状態で決まります。ゼイゼイがひどくて呼吸する度におなかをペコペコさせる、顔色が悪く、ミルク母乳の飲みが悪い等があれば要注意です。



お答え
むかわクリニック
院長　務川　靖 先生

雑記

なぞなぞです。
動物の野球チームで、背番号「９」だけは、絶対につけたくない！という動物は何でしょう？

答え：好かん「９」→スカンク